



戦没・殉職船員の御霊の鎮魂を祈念して黙とうを捧げる

# 海洋永遠の平和を

## 第48回戦没・殉職船員追悼式

観音崎公園

# 潮 騒

第 46 号  
平成30年  
8月 1日

公益財団法人 日本殉職船員顕彰会  
〒102-0083 東京都千代田区麹町四・五  
海事センタービル  
電話 〇三・三三三三・〇六六二  
FAX 〇三・三三三三・〇六八二

第48回戦没・殉職船員追悼式は5月15日(火)、ここ数年続いている初夏を思わせる晴天と強い日差しの中、横須賀市の神奈川県立観音崎公園の丘陵から、眼下に見る東京湾口の浦賀水道を行き交う船の、はるか彼方の太平洋を望む、鎮魂の碑「戦没船員の碑」の前で、全国各地からご遺族をはじめ立法および行政の関係者、海事関係団体ならびに業界代表者ら約500人の参列者が集い、盛大に執り行われた。

式典に先立ち、海上自衛隊横須賀音楽隊・本田航司2等海尉の指揮により「真白き富士の嶺」「椰子の実」「千の風になって」の曲が、おごそかに演奏されると、参列者は静かに聴き入った。

式典は午前11時、開式の辞に続いて、海上自衛隊横須賀音楽隊の演奏にあわせ国家斉唱の後、「国の鎮め」

の曲が流れる中、戦没・殉職船員6万3614人の鎮魂と永久の平和を祈念して黙とうを捧げた。

日本殉職船員顕彰会を代表して、朝倉次郎会長が「式辞」を、国を代表して「内閣総理大臣追悼の辞」を、国土交通省の馬場崎靖大臣官房審議官が代読した。

続いて献花に移り、平成12年、公益財団法人日本海事広報協会と日本殉職船員顕彰会が共同で制作した、海に殉じた人々へのレクイエム(鎮魂曲)『君は帰る母なる海へ』(星野哲郎作詞・都倉俊一作曲)を、海上自衛隊横須賀音楽隊により、吹奏楽用に編曲された鎮魂曲が演奏される中、会長、遺族代表、海事振興連盟、各界代表の代表献花に続いて参列者全員が、碑文石の前の献花台に白菊を供え、今なお蒼海深く眠る戦没・殉職船員6万3614人の御霊の鎮魂と海洋永遠の平和と安全を願って祈りを捧げた。

参列者の献花の後、観世一門による能楽「海霊」が奉納された。

式典終了後、参列者は恒例の懇親会が行われる、観音崎京急ホテルへ送迎バスで移動した。

追悼式が「戦没船員の碑」で行われていることを初めて知って、参列した戦没船員のご遺族を交え、毎年参列しているご遺族・OB船員や参列者の皆さんの、再会を喜ぶ声とともに和やかに歓談していた。

### 能楽「海霊」奉納

能楽「海霊」は、先の大戦で戦没した船員6万余人の霊を慰め、その徳をあきらかにし、併せて平和を祈るために、宮越賢治船長が作詞、25世観世左近元正帥により作曲され、昭和46年5月6日、皇太子同妃殿下の行啓のもとに第1回戦没船員追悼式が挙行されるに当たり、能楽「海霊」を奉納することとしていましたが、降りしきる雨により懇親会場で奉納され、それ以来、追悼式典では「海霊」が宮越船長をシテ(主役)として観世一門によって奉納されています。

宮越船長は、昭和61年に亡くなられましたが、その後は観世一門により絶えることなく奉納が続けられています。



# 波静かなれ とこしえに

## 第48回戦没・殉職船員追悼式

観音崎公園

式典は、戦没・殉職船員6万3614人の鎮魂と永久の平和を祈念して黙とうを捧げた後、式辞を顕彰会を代表して、朝倉次郎会長が、国を代表して内閣総理大臣追悼の辞を国土交通省の馬場崎靖大臣官房審議官が代読した。

◎式辞 朝倉次郎 会長



本日ここに、第48回戦没・殉職船員追悼式を執り行うにあたり、全国各地から、ご遺族をはじめ関係者の方々のご参列を賜りましたことに、心より感謝申し上げます。

本年もまた、戦没船員の碑にあらたに殉職船員2人の名簿を奉安いたしました。これにより先の大戦で犠牲となった戦没船員6万643人と

海難などにより殉職された船員2971人の尊い御霊が、安らかに眠っておられます。

終戦から73年。今日、幾多の困難を克服し、海洋国家日本として、平和と繁栄を享受できているのは、志半ばで海に散った戦没船員と、わが国の復興を支えた、海運・水産業で、不幸にしてその職に殉じられた船員の尊い犠牲とご功績のうえにあることを決して忘れてはなりません。

ここにあらためて、深く哀悼の誠を捧げるとともに、かけがえのない肉親を失い、言い知れぬ苦難の日々を送ってこられた、ご遺族の方々の労苦と心情に思いをいたし、心から敬意を表するものであります。

私たちは、明日を担う者たちが二度と同じ轍を踏まぬよう、戦争の不条理と悲惨さを後世に伝えるとともに、戦没・殉職船員の御霊の慰霊・顕彰と海洋国家日本の永久（とこしえ）の平和と安全を祈念していくことを、ここにお誓いいたします。

安らかにねむれ わが友よ

波静かなれ とこしえに

この碑に刻まれた言葉を、ご参列

いただいた皆様とともに御霊へ捧げ、本会を代表しての式辞といたします。

◎内閣総理大臣追悼の辞

馬場崎靖 国土交通省大臣官房審議官代読



第48回追悼式が挙行されるに当たり、戦没・殉職船員の方々の御霊に対し、謹んで追悼の誠を捧げます。

苛烈を極めた先の大戦においては、6万人余りの船員の方々が、祖国を思い、家族の行く末を案じながら、尊い命を失われました。戦後も、海難事故や労働災害により2千9百人を超える船員の方々がその職に殉じられるとともに、東日本大震災において、海と共に生きる多くの方々が犠牲になりました。

いま、私たちが享受している平和と繁栄は、海とともに生きた多くの方々の尊い犠牲の上に、築かれたものであります。私たちは、そのことを、ひとときも忘れることはありません。衷心より、敬意を表します。

祖国の未来を想い、蒼海に眠る船員の方々の御霊の御前で、恒久の平和と海上交通の安全に全力を尽くして参りますことを、改めて、ここに固くお誓いいたします。

御遺族の皆様深い悲しみに思いを致すとともに、御霊の永久（とわ）に安らかならんことを心からお祈りいたします。





# 献花を捧げる

海上自衛隊横須賀音楽隊による鎮魂曲「君は帰る母なる海へ」がおごそかに演奏される中、献花が行われ



① 献花を捧げる朝倉会長



② 左から、ご遺族の松田さん、後藤さん、小澤さん、井関さん

た。顕彰会を代表して朝倉次郎会長（写真①）に続いて、ご遺族を代表して戦没船員遺族の、井関能雄さんと後藤美津子さん、殉職船員遺族の小澤恒雄さんと松田優美子さんが白菊を捧げた。（写真②）

## ◎来賓・各界代表献花者(敬称略)

- 井関 能雄 (戦没船員遺族代表)
- 後藤美津子 (戦没船員遺族代表)
- 小澤 恒雄 (殉職船員遺族代表)
- 松田優美子 (殉職船員遺族代表)
- 衛藤征士郎 (海事振興連盟会長、衆議院議員、名代神田信浩)
- 馬場崎 靖 (国土交通省大臣官房審議官)
- 石川 尚 (日本船主協会常務理事)
- 藤岡 宗一 (日本内航海運組合総連合会、審議役)
- 小林 憲 (大日本水産会常務理事)
- 森田 保己 (全日本海員組合組合長)
- 酒井智代子 (全国海友婦人会会長)
- 上地 克明 (横須賀市長)
- 伊藤 順一 (横須賀市議会副議長)
- 久保 徹 (神奈川県横須賀土木事務所長)
- 奈良 和人 (神奈川県浦賀警察署長)
- 渡邊剛次郎 (海上自衛隊横須賀地方総監)
- 宮崎 一巳 (海上保安庁、第三管区海上保安本部長)
- 上田 英夫 (国土交通省海難審判所長)
- 甲斐賢一郎 (運輸安全委員会事務局、横浜事務所長)
- 天谷 直昭 (日本海事センター常務理事)
- 竹内 俊郎 (東京海洋大学長)
- 野崎 哲一 (海技教育機構理事長)



左から小林さん、藤岡さん、石川さん



馬場崎さん、神田さん



左から奈良さん、久保さん、伊藤さん、上地さん



酒井さん、森田さん



左から野崎さん、竹内さん、天谷さん、甲斐さん、上田さん



宮崎さん、渡邊さん

## ◎式電をいただいた方々(敬称略)

- 甘利 明 (衆議院議員)
- 石破 茂 (衆議院議員)
- 定塚由美子 (厚生労働省 社会・援護局長)
- 村川 豊 (防衛省 海上幕僚長)
- 武田 廣 (神戸大学長)
- 林 祐司 (鳥羽商船高等専門学校長)
- 井瀬 潔 (弓削商船高等専門学校長)
- 辻 啓介 (広島商船高等専門学校長)
- 福田 勝哉 (大島商船高等専門学校長)
- 富澤 暉 (公益財団法人偕行社理事長)
- 山内 守武 (福岡海寿会会長)





# 参列した皆さまのお話し

## ■井関能雄さん（戦没船員遺族）

### 二度と海を危険に

さらしてほしくない



東京都から妻と来まして。追悼式の存在を知ったのは2015年。戦後70年目

の節目の年として、天皇皇后両陛下がご臨席された第45回戦没・殉職船員追悼式のニュースが、夕方テレビから流れてきたんです。昨年までは仕事で休みが取りづらく、今回初めて参列し、戦没船員遺族として代表献花をしました。

父の鶴雄は誰かの代役として、明石山丸（三井物産、4541総トン）に三等航海士として乗船、雷撃により戦死しました。もし乗らなかつたら：「誰も乗らないならば」とお人好しにも代役を引き受けたばかりに：と思わずにはいられません。父は本当に困った人を放っておけないお人好しだったと聞いています。当時まだ10カ月だった私は、父のことは聞いて

知るほかありません。

享年45歳の父に対し、私は今日（5月15日）で75歳。平和が続いたおかげで、父より30年も長く生きてこれました。二度と海を危険にさらしてほしくない、この気持ちは万人に共通するものだと思います。（談）

## ■齋藤有美さん（戦没船員遺族）

### 戦没した祖母の弟の詳細が

顕彰会に辿り着いて判明



今年初めで戦没・殉職船員追悼式に出席しました。母方の祖母の弟が戦争で

亡くなったことを私は母から聞いたんですが、祖母が亡くなり正確な情報がありませんでした。墓石には日付はありましたが、私が詳細を確認しようと思っても分からなかつたんです。

祖母の実家は静岡の伊東で網元をしていました。戦時中、船と人を出してほしいといわれて出していたといわれていたので、祖母の弟は実家



白菊を手向け、お祈りする皆さま

静岡県の資料よりも詳しくかったので、交戦の記録もいただいて、何があったのが分かり、やっと点と線がつながったんです。

祖母は、どのようにして沈んだのか、知っていて言わなかったのかも知れません。私としても埋もれた話を追跡、あきらめずにやって細かい資料をいただいて今思うことですが、祖母の弟が沈没したときの僚船も分かりましたので、いつか乗っていた遺族とも会うことができればとの思いもあって、顕彰会の会員になりました。（談）

の船に乗って沈没したと思っていたんです。静岡県で調べたところ書類に船名が載っていて、船団が第四艦隊所属まで分かったんです。実家の船ではなく第二栄宝丸という違う船に乗っていて、小笠原沖で昭和19年4月30日に沈没したんです。厚生労働省にも聞いて調べました。

戦後70年の2015年、産経新聞に戦争で亡くなった方を調べられることが載っていました。こうした中で、神戸の戦没した船と海員の資料館をネットで見つけましたが、海軍の横須賀管轄だったことから、観音崎での戦没・殉職船員追悼式があることを知り、そこから日本殉職船員顕彰会に辿り着いたんです。

ここで調べていただいたものは、



参列された皆さまから、御霊に捧げられた白菊



## ■ 小山田博さん(95歳・戦争体験船員)

## 二度の沈没、「命を覚悟した」

## 観音崎に来て新たな気持ちに



二度やら  
れまして、  
1回目は昭  
和19年3月  
30日です。  
敵の機動部  
隊にやられ

て沈没しました。那岐山丸(三井船  
船、4319総トン・貨物船)でし  
た。

2回目は第七蓬萊丸(834総ト  
ン・タンカー)で昭和19年11月1日  
に被雷しました。「その時は轟沈と  
いうか、自分の船がどうなったか分  
からない。命中爆発でした」。海の  
中に入りましたが、幸い2回とも助  
かりました。

21歳の時でした。今、95歳で大正  
12年3月27日生まれですが、こうし  
た体験が折に触れて出てきます。飛  
行機を見た時とか、船を見た時、大  
体そんな時に過去を思い起こします。  
2回目に沈没した時、「命はない」

と覚悟しました。私は左舷方向をち  
よっと見ていたんですが、魚雷が来  
ているのが分らない、命中して爆発  
と同時に「やられた」と分かったん  
です。天に打ち上げられて、集団で  
船団として走っているもんですから、

私たちがやられるところを、周りが  
見とったんですね。その時の報告で  
は「おたくの船は魚雷で爆発した。  
空に向かって油、船体が粉々になっ  
て吹き上げられ、それが下に落ちて  
きて、そのあとは何も見えなかった」、

船がどういふふう沈んだか、分か  
らなかつたというんです。

吹き上げられて、その時の私の自  
覚としては「バーンと爆発した」。

水、油が吹き付けてきて、そのまま  
水中に引き込まれていました。もが  
いて、何分間か時間は分かりません  
が、もがいているうちにだんだん上  
に上がってきて、海上に「ぼかつ」と  
浮かび上がったとき、「あつ、  
助かった」という感じなんです。

ただ原油を積んでいたので、沈ん  
で水中が真っ黒、真っ暗になり、暗  
くなるほど臭いわけで、地獄でした。  
近くの護衛艦に助けられマニラに上  
がり、12月半ばに内地に帰ってきま  
した。幸運ですね。

私どもの年代はほとんど戦争で時  
代が過ぎたといっても過言ではあり  
ません。また戦後は戦後で、復興の  
ために同年代の人達が頑張ってきた  
んだらうと思います。

若い人に戦争体験を伝える機会は  
特になくて、それらしい集まりとか、  
そういう話をする雰囲気の人に、お  
話して伝える程度です。若い人は戦  
争とは具体的に分かりませんし、私  
たちの説明を聞いてなるほど分か

るわけです。それを聞いた人がどう  
判断されるかの気持ちですから、な  
るべく事実に近い話をしていきます。  
家族にも、話をしないのがおかし  
いと思われるほどしません。求めら  
れればしますが、自ら積極的にはし  
ていません。

戦没・殉職船員追悼式には、15年  
くらい前から毎年ではありませんが  
出ています。観音崎に来て新たな気  
持ちになります。私は生き残ったん  
ですが、海に散った同期が大勢いる  
わけなんです。神戸の第一短期高等  
海員養成所の1期生で卒業年度は昭  
和18年、航海科が150人いました。  
ずっとクラス会幹事役をやっていま  
した。今、残り5、6人となりました  
が、同級生に発信したいと思いま  
す。(談)

■ 水野孝さん(88歳・戦争体験船員)  
雷撃で大破するも 沈没は免れる

88歳です。  
千葉県から  
来ました。  
戦争体験船  
員として、  
毎年参列し  
ています。

私は海員養成所を出てすぐ、見習  
い機関員として月山丸(日本海汽船  
5415総トン)に乗りました。1  
回目は韓国へ単独航海で行き、往復

無事でした。2回目は台湾へ船団で、  
これも往復無事。ところが3回目、  
1944(昭和19)年10月22日に門  
司を出発した時のことです。たしか  
兵員を4000人ほど乗せていまし  
た。

当時「見習い」だった私は機関室  
で勤めるというより、「煙当番」な  
どをしていました。船尾の甲板の一  
番前に腰掛け、黒い煙が船からのぼ  
ったら、目の前のボタンを押すん  
です。すると機関室で光が点滅、潜水  
艦に発見される危険性を知らせます。

マニラに向けて航海中の24日、夜  
明け前で辺りは真っ暗でした。私が  
船尾の甲板に出ようとした時、突然  
船が大きく揺れました。雷撃を受け  
て大破したんです。沈没は免れたも  
の、航行不能に陥った月山丸は、  
神福丸に曳航されて済州島に接岸、  
兵員を全て下船させました。船員だ  
けになってから、釜山のドックに入  
ったと思います。

そこで見たのは船尾に開いた、洞  
窟のごとき穴。鉄板はめくれあがり、  
その先端からは腕がぶら下がってい  
ました。船尾には乗組員室や食堂な  
ど、船員用の部屋がありましたから、  
非番の誰かのものでしょう。船尾に  
いて助かった船員は一人だったでし  
ょうか。当直に入っていた者は皆無  
事だったようです。

この雷撃で兵員は23人、船員は17  
人が戦死したといえます。(談)





実行委員の皆さん

追悼式典の運営には大勢のボランティアによるご支援が欠かせません。第48回追悼式には、海事関係15団体37人と個人協力者8人に顕彰会スタッフ4人を加えた49人が携わりました。

追悼式当日は、夏日を思わせる強い日差しと暑さで、体調を崩された方もおられました。大事にいたりませんでした。

実行委員各位の多大なご協力により、大きな混乱もなく滞りなく挙行しました。皆様のご支援、ご協力の

賜物と感謝いたします。

今回も実行委員の皆様から、次回につなげるご意見・要望が寄せられました。その一部を紹介します。

#### ■男性

日本殉職船員顕彰会や戦没・殉職船員追悼式については、漠然と認識していたものの、実際にどういったものなのかはあまり分かっていなかったというのが正直なところではあります。

今回実行委員として第48回戦没・殉職船員追悼式に参加させていただき、遺族をはじめとする関係者の多くがご高齢となっておられることを目の当たりにし、長い年月が経過しているのだなと実感しました。時間とともに人々の意識が薄れていくことは避けられないことだと思いますが、戦時中に商船が徴用され、数多くの船員が悲劇に見舞われたことを後世に伝えることは、こうした悲劇を二度と繰り返さないために必ず行わなくてはなりません。

今回運営側として参加し、戦没・殉職船員追悼式は、海に関わる多くの方々の努力や働きによって支えられ、続いているものであると感じました。人々の意識の風化を防ぐため、この式が毎年問題なく開催されるよう、海に関わる人々の一員として今

後も何らかの形でサポートできればと思います。

#### ■男性

今回初めて戦没・殉職船員追悼式に実行委員という形で参加することができ、一船員として非常に良い経験となりました。

実際に式典を見ることはできなかつたのですが、毎年実行委員として参加されている方の話や若い学生さんの話等普段船に乗って聞いては聞けない話等も聞くことができても良かったのです。

次回また参加することになれば一度経験をしたので落ち着いてできるかなと思います。



参列者の案内について、綿密な打ち合わせ

#### ■女性

私は追悼式に今回初めて実行委員として参加させていただきました。

会場に到着された参列者の方々を受付までご案内しているときは、ご高齢の方が多いにもかかわらず、足場の悪い道だったので、気を配りながらご案内するのが難しかったです。献花補助をしているときは、実際に式の様子を見ることができました。式の内容や目的は知っていましたが、想像していたのとは異なり、悲しみに包まれているというよりは穏やかな追悼式だったので、少々驚きました。しかし参列者の方々が碑の前に献花をしているときは、それまでの空気とは違い、温かさもありながら、どこか悲しさやさみしさを感じました。

大学に入学してから、島国である日本がどれほど海上輸送に支えられているかを知りました。海上輸送がなくなると、今まで通りの生活ができなくなるといっても過言ではありません。最後まで海運業に従事され、殉職された船員の方々を追悼することは、一海洋大生として、一日本人としてとても大事なことだと思います。これから先もこの追悼式が行われ続けることを願います。

戦没・殉職船員追悼式は関係団体と個人協力者の支援で運営されています



▼横須賀海洋少年団(9人) ▼東京海洋大学海事普及会(9人) ▼全日本海員組合本部(4人) ▼全日本海員組合関東地方支部「海友会」(2人)・「木洋会」(2人) ▼日本船主協会(2人) ▼大日本水産会 ▼日本航海運組合総連合会 ▼日本海事広報協会 ▼日本水先人会連合会 ▼海技振興センター ▼海洋会 ▼全日本船舶職員協会 ▼日本船長協会 ▼日本船舶機関士協会、以上各1人 ▼個人協力者(8人) に顕彰会(4人) が加わり49人で実行委員会を構成しました。



「戦没船員の碑」広場

**女性**  
 今年も天気は快晴で多少の風はありましたが、暑くなるだろうなど式典前に考えておりました。  
 今年の式典から二回目の実行委員としての参加で今年もこの式典のお手伝いをさせていただくこと、碑文石の先に広がる美しい海の景色を見ることができたことに喜びを感じております。  
 昨年の反省からいかにスムーズに式典の進行ができるお手伝いができるか、というのが私の中の課題でした。昨年と担当・係が変わること



中央に聳えるのは、白磁の大碑壁

はありませんでしたが、全体の進行の中で、ところどころ細かいところが変更されており、そのお手伝いをするのができました。  
 車寄せの時に参加者の方の中で足が思うように動かせない方に対して補助をしている様子を見て、私もやってみようと思いましたが、なかなか難しく、時には手を出すのを躊躇してしまいう時もありました。私は今年、そのことが非常に心残りでした。どのようなことでも想定して、もっ

私は東京商船大学を前身とする海洋大学の学生であり、講義等で戦争中に多くの船員の命が犠牲になってしまったことを、知識としては知っていました。実際には式典に関わることで、それらを肌で感じる事ができました。すべてがまだ理解できない訳ではありませんが、戦争を知らない私たちを含めた世代に船員たちの思い、功績を伝えていくことが海洋大学生、海事普及会の役割なのだと思います。  
 今後機会がございましたら、携わらせていただきたいと思います。

**男性**  
 今回初めて追悼式に参加させていただき、周りの実行委員の手ほどきを受けて、無事、自分の務めを果たすことが出来ました。  
 式典自体も参列者の方々の言葉、表情から心に響くものに至ったとわかり、この「戦没・殉職船員追悼式」のお手伝いが出来た事を誇りに思いました。



参列者がお帰りの時、白菊を手渡す東京海洋大学海事普及会の皆さんと白菊を包装する海洋少年団の皆さん。



# 戦没・殉職船員の御霊に献杯

真夏日を思わせる強い日差しの中での追悼式を終えて、参列者はマイクロバスで、また足腰の健康な方々は汗だくになりながら徒歩で懇親会場の観音崎京急ホテルに移動し、目の前に広がる日本の海の大動脈、浦賀水道航路を行き交う船を眺めながら恒例の懇親会を開催した。

懇親会では、日本殉職船員顕彰会の朝倉会長のあいさつに続いて、馬場崎靖国土交通省大臣官房審議官により「御霊の安らかならんこととご遺族の未永いご健勝を祈念して献杯」のご発声により、遺族の方々ははじめ関係者らがテーブルを囲んで、和やかに歓談のひと時を過ごした。



懇親会であいさつする朝倉次郎会長



馬場崎靖国土交通省大臣官房審議官の献杯のご発声により和やかな懇親会がはじまった



## お知らせ

公益財団法人日本殉職船員顕彰会  
電話 03・3234・0662



昨年の終戦記念日献花式は、雨の中で執り行われた

## 終戦記念日献花式

終戦記念日（8月15日）に観音崎公園「戦没船員の碑」で献花式を行います。ご案内するのは、当会役員など約60人ですが、どなたでも参列することが出来ます。参列される場合は、バス等の関係から顕彰会に必ずご連絡ください。

▽午前11時20分観音崎京急ホテル集合 ▽11時30分マイクロバスで戦没船員の碑へ▽同50分慰霊碑の献花台前に整列 ▽「全国戦没者追悼式」のラジオ実況放送に合わせて総理大臣式辞  
▽12時黙とう、戦没船員の御霊を追悼し、海洋永遠の平和を誓います。 ▽同02分天皇陛下のお言葉を聞き、閉式。マイクロバスで観音崎京急ホテルへ戻って昼食・解散となります。  
服装は、白ワイシャツに黒ネクタイの軽装でお願いします。  
例年、当会の役職員のほか、海事関係者や当会役員経験者など40人余が参列し哀悼の誠を捧げます。



## 戦没船員の功績等の調査 事例紹介

本会の事業の一つに戦没船員の功績等の調査があります。先の大戦において戦時徴用船で輸送業務にあたり、尊い命を犠牲にされた戦没船員は分かっているだけで6万643人にのぼり、横須賀市の神奈川県立観音崎公園にある「戦没船員の碑」には浄書した名簿が奉安され、毎年5月中旬の追悼式典で戦没・殉職船員の慰霊を行っています。ご遺族をはじめ親類縁者や関係者の中には、まだまだ知らない方々も多く、戦没の状況まで知っている方は、さらに少ないといえます。本会は、こうしたご遺族の方々からの問い合わせにお応えし、調査情報の提供を日常の業務として行っています。その中から本号でも事例のいくつかを紹介いたします。

### ■女性（大阪府）

父が戦没している。「戦没船員の碑」が横須賀の観音崎公園にあると聞いた。碑にはどのように行ったらいいかと電話で問い合わせがあった。

### 【回答】

電話で、父上が戦没船員名簿に登録され「戦没船員の碑」へ奉安されていること。碑の行きかたについて説明するとともに、乗船していた「東天丸」の資料と観音崎公園のマップをお送りした。

お父上は、日本水産（水産統制令により「日本海洋漁業規制」となる）・東天丸に航海士として乗船中、昭和19年6月11日戦没されています。東天丸（船舶運営会使用船・カニ工船、3830総トン）は、昭和19年6月8日、オホーツク海の占守島（カムチャッカ半島南方）から小樽向け航行中の6月11日、米潜水艦の

が知りたい。（メール）

### 【回答】

お問い合わせがありました、大叔父様（享年16歳）は、当会の戦没船員名簿によりますと、昭和20年1月7日、大阪商船「大剛丸」に甲板員として乗船中に戦没され、ご芳名と没年月日を浄書した名簿が、神奈川県立観音崎公園（横須賀市）の「戦没船員の碑」に奉安されています。当会所蔵の資料等によりますと、

「大剛丸」（5244総トン、戦時標準船（1K・5型）、船舶運営会使用船）は、単独航海中の昭和20年11月8日、米潜水艦「Balaio」の魚雷攻撃により、北緯34度37分、東経122度12分（黄海・青島南東250キロ付近）。で沈没。

船長以下13人と警戒隊員14人が行方不明となり、49人（乗組員45人）は救命艇で脱出するものの漂流中、厳冬の寒気に耐えられず16人が凍死しております。

12日、早朝陸岸に漂着した生存者は中国兵に捕らわれ脱出を図るが中国軍に包囲され、すべてをあきらめ自決。壮絶な最期をとげています。

### ■女性（北海道）

先日、防衛省防衛研究所、戦史研究センター史料室に、私の大おじ様・鹿児島県出身が、船舶司令部・辰羽丸（軍属）で、昭和19年2月17日トラック島向け航海中に、空爆により爆破し戦没しました。

ご供養するために参考資料をもとめてみました。それで「日本殉職船員顕彰会」を知り、入会させていただきたいと思ひましてお手紙を書きました。

小さな力しかない私ですが、世のために尽くせるのなら戦没船員の供養をし続けます。（手紙）

### 【回答】

この度は、当会に入会したいとお手紙をいただき誠にありがとうございます。

大おじ様は、別紙資料のとおり辰馬汽船の辰羽丸に操機手として乗船中、昭和19年2月17日トラック島大空襲により戦死されています。

戦没された船員の方々のご芳名と没年月日を浄書した名簿が、神奈川県立観音崎公園（横須賀市）の「戦没船員の碑」に奉安されています。

辰羽丸（陸軍徴用船・辰馬汽船、貨物船、5748総トン）は、トラック防衛部隊第52師団の一部5300人と軍需物資等を搭載して、昭和19年2月4日、トラック島に向けて横浜を出港。

昭和19年2月17日14時15分頃、トラック西北西150キロ付近（北緯7度49分・東経150度10分）で、米機動部隊の艦上爆撃機の攻撃を受け、搭載中のダイナマイト・弾薬に引火し大爆発を起し沈没しました。乗組員34人、部隊500人、備砲隊1人が戦死されています。



## 遺児たちを守る支援制度

### 殉職船員遺族援護 遺児へ援護金を支給

日本殉職船員顕彰会の設立にあたって、『戦没船員の碑』が昭和46年に建立されてから10年間、戦没船員追悼式を毎年5月に執り行っていました。この式典が戦没船員の追悼に限られていたことから、同じ海の職場に命を捧げた商船や漁船等の殉職船員の慰霊についても配慮してほしい要望が高まりました。

これを機に、すべての殉職船員に慰霊の誠をあらわし、その業績を顕彰するとともに、海洋永遠の平和を祈念するための『戦没・殉職船員追悼式』を国民的行事として行うことにより、国民の海洋精神の高揚を図り、海洋立国の認識を深めることを目的として、戦没・殉職船員の業績調査と、その功績を後世に伝え、戦没・殉職船員遺族の援護にあたるために、昭和56年4月に「戦没船員の碑建立会」の事業を継承して、財団法人として当会が発足しました。

当会の殉職船員遺族援護事業は、昭和58年に外航船13人・内航船7人の殉職船員遺児に対して給付が行われてから、平成2年の外航船59人・内航船63人・旅客船13人・その他9人をピークに漸減しています。

海難や労災事故はあつてはならないことですが、殉職船員遺児援護制度を知らないために苦境におかれては大変です。

個人情報保護の関係から事故情報を取りにくい社会情勢にあります。船社や業界関係団体の積極的なご協力をお願いいたします。

### 返還義務のない制度

当会の殉職船員遺族援護事業は、商船などに乗船中、海難や労災事故で殉職した船員の遺児に援護金を給付する制度で、返還の義務はありません。

支給額は1人月額8千円のほか、入学記念品代として小学校入学時に3万円、中学校入学時と高校入学時には、それぞれ1万円を給付します。支給期間は、遺児が生まれてから義務教育および高等学校を終了するまで。詳しくは、当会事務局へお問い合わせください。

漁船乗組員の遺児の方は、漁船海難遺児育英会（☎03・3518・6121）が援護事業を行っておりますので、お問い合わせください。

## 殉職船員

### ご遺族からのお便り

本誌夏号では、殉職船員ご遺族の方々からのお便りを紹介しています。

■水野真由美さん（愛媛県）

いつもありがとうございます。皆、元気に生活しております。

■織田幸恵さん（広島県）

6月25日：私の誕生日でした。「ケーキはないけど、ハッピーバースデイトゥユー」と言って、歌のプレゼントをしてくれました。

『できる時にできることを全力で』私の口ぐせがいつの間にか子どもの中にも根づいたようです。小さな成長をパパにも教えてあげたいと思います。

■大鋸美穂さん（長崎県）

大学受験に向けて本人も頑張っております。いつもありがとうございます。

■大竹初美さん（三重県）

いつもありがとうございます。3月14日長女は、無事大学を卒業しました。長い間のご支援本当にありがとうございました。感謝の気持ちでいっぱいです。

そして次女は、4月から高3になります。この1年大学受験にむけて心身共に大変です。無事のりこえられるようにサポートするのみです。

■佐藤亜希さん（青森県）

春輝も1年生になります。5月頃から私の実家近くに部屋を借りて住む予定です。小学校の目の前なので本人も楽しみにしています。小学校へ行ったら、野球を頑張りたいと話していました。パパにそっくりな春輝をみていると、毎日が楽しみです。しかたありません。今月の27日で丸3年が経ちます。パパがいなくなった時、まだ3才だったこの子が6才になりました。パパのお墓にランドセル姿をみせに行きます。

### 殉職船員2名 新たに奉安

商船や漁船などに乗船中、海難や職務上の事故などで殉職された船員のご芳名と没年月日を浄書した名簿を「戦没船員の碑」に奉安し、毎年5月中旬に執り行われる「戦没・殉職船員追悼式」で御霊の鎮魂と海洋永遠の平和を願って、祈りを捧げています。

本年は、次の殉職船員の浄書した名簿を「戦没船員の碑」に奉安いたしました。

5月15日に執り行われた第48回戦没・殉職船員追悼式で全国から参列した方々から、鎮魂の祈りが捧げられました。

#### 殉職船員

櫻井 肇 様（平成29年2月19日没）  
及川 三男 様（平成29年2月19日没）

### 皆様のご厚情に感謝申し上げます

平成29年12月1日以降、平成30年6月30日までの間に、次の方々に新たに賛助会員、協賛会員として加入いただきました。

また、次の皆様からご寄付をいただきました。厚く御礼申し上げます。

本会の事業運営は、基本財産の運用益のほか、会員からの会費や寄付金、海運・水産・旅客船などの会社および海事関係団体からの会費や補助金などで、戦没・殉職船員の慰霊・顕彰とご遺族への援護事業を支えています。

会員制度には、賛助会員と協賛会員があります。

■賛助会員には、「法人」と「個人」があり、年会費は◎法人賛助会費110万円、◎個人賛助会費110万円を願っています。  
■協賛会員は「個人」に願っているもので、年会費は103千円です。

#### 新たな賛助会員の皆様 (順不同)

- 伊藤富美子様 (岩手県奥州市)
- 池田よしえ様 (札幌市)
- 半田收様 (千葉県佐倉市)

#### 新たな協賛会員の皆様

- 棚池さつき様 (東京都多摩市)

#### 追悼式献花料 (順不同)

- 川畑實恵様 (兵庫県明石市)
- 水野孝子様 (新潟市)
- 山本大道様 (山口県下関市)
- 棚池さつき様 (東京都多摩市)
- 津田芳子様 (兵庫県揖保郡)
- 齋藤有美様 (神奈川県川崎市)
- 山藤浩子様 (広島市)
- 澤根美智子様 (岡山県笠岡市)
- 村上菊野様 (福岡県北九州市)
- 横須賀市東部漁業協同組合鴨居支所様 (神

- 奈川県横須賀市) ○米山隆昭様 (東京都北区)
- 荒谷秀治様 (横浜市)
- 齋藤清伍様 (千葉市)
- 山本貴一様 (横浜市)
- 飯嶋佳代子様 (東京都港区)
- 二光商運株式会社様 (東京都港区)
- 日本航路標識協会様 (東京都千代田区)
- 船主団体内航労務協会様 (東京都千代田区)
- 荒川博様 (東京都三鷹市)
- 福岡海寿会様 (福岡市)
- 小松和夫様 (横浜市)
- 南七郎様 (新潟県岩船郡)
- 山下義昭様 (神奈川県中郡)
- 飯田喜久三様 (東京都渋谷区)
- 多胡明美様 (東京都小金井市)
- 大圖富美子様 (水戸市)
- 高野さよ子様 (静岡市)
- 山岸信一様 (前橋市)
- 嶋田早苗様 (京都府八幡市)
- 中野昭男様 (名古屋市)
- 久津間節子様 (千葉市)
- 小野恵美様 (東京都港区)
- 後藤美津子様 (横浜市)
- 今田小夜子様 (埼玉県川口市)
- 西本久美子様 (埼

- 玉県越谷市) ○高橋柳子様 (千葉県成田市)
- 中村武弘様 (福島県いわき市)
- 田仲智子様 (静岡県焼津市)
- 西野英子様 (東京都府中市)
- 中田弘幸様 (神奈川県相模原市)
- 小野寺麗子様 (宮城県気仙沼市)
- 小澤恒雄様 (松江市)
- 福本健治様 (神奈川県横須賀市)
- 全日本海員生活協同組合様 (横浜市)
- 鴨居地区連合町内会様 (神奈川県横須賀市)
- 鴨居三軒谷町内会様 (神奈川県横須賀市)
- 鶴丸海運株式会社様 (福岡県北九州市)
- 宮越和子様 (千葉県佐倉市)
- 海員組合職員OB全国会様 (東京都港区)
- 小田切威様 (横浜市)
- 宮越健郎様 (全日本海員福祉センター様 (東京都港区)
- 商船高専校長会様 (三重県鳥羽市)
- 日本航海運組合総連合会様 (東京都千代田区)
- 小林さかえ様 (東京都目黒区)
- 松本三七一様 (兵庫県姫路市)
- 南洋海運株式会社様 (神奈川県藤沢市)
- 豊丸漁業有限公司様 (神奈川県横須賀市)
- (一財) 船員保険会会長霜鳥和彦様 (東京都渋谷区)
- (一財) 船員保険会常務理事石川宏様 (東京都渋谷区)
- (一財) 船員保険会常勤監事 中澤政光様 (東京都渋谷区)
- 全国海運組合連合会様 (東京都千代田区)
- (公財) 日本海事センター様 (東京都千代田区)
- (一社) 日本中小型造船工業会様 (東京都千代田区)
- (公財) 水交会様 (東京都渋谷区)
- 東郷会

#### 寄付金 (順不同)

- 様 (東京都渋谷区)
- (一社) 外航船員医療事業団様 (東京都千代田区)
- 海翔会様 (東京都港区)
- 三輪史郎様 (千葉県富里市)
- 横浜海員会館様 (横浜市)
- 曾根幸雄様 (横浜市)
- 五十嵐温彦様 (神奈川県大和市)
- 全国海員学校同窓会様 (埼玉県新座市)
- 本村泰清様 (神奈川県逗子市)
- 鳥羽商船同窓会様 (三重県鳥羽市)
- 佐藤利信様 (千葉県富里市)
- 田口ウメ子様 (神奈川県大和市)
- イイノマリンサービス船員共済会様 (東京都千代田区)
- 太田敏子様 (神戸市)
- 毛利昂志様 (東京都練馬区)
- 田子のぶ子様 (長野県上田市)
- 藤井栄子様 (埼玉県上尾市)
- 猪股貞雄様 (東京都清瀬市)
- 岡靖晃様 (神奈川県横須賀市)
- 小野寺功一様 (宮城県気仙沼市)
- 川田レイ子様 (兵庫県西脇市)
- 森邦弘様 (横浜市)
- 斎藤延子様 (埼玉県上尾市)

#### 遺族援護寄付金

- 海事思想普及研究会様 (神戸市)

#### 終戦記念日献花式供花料 (順不同)

- 米山隆昭様 (東京都北区)
- 齋藤有美様 (神奈川県川崎市)



## 戦没船員の碑



戦没船員の碑にある、神戸高等商船学校練習帆船・進徳丸の左舷錨。航海訓練所の所属となり昭和20年空襲を受け擱座。その後、汽船練習船に改装され昭和37年まで就航した。この間世界に雄飛する幾多の船舶職員を育てた。

### 戦没船員の碑建立の経緯

昭和12年から満8年にわたり、太平洋全域からインド洋にまで及んだ先の大戦は、別名海上交通戦争ともいわれ、わが国の商船をはじめ、機帆船、漁船など、船と名のつくものはほとんど徴用され、海上輸送や監視の任に従事しました。

しかし、真珠湾奇襲作戦から約半年、連合軍が反撃に転じてからは、これら船舶に対する連合軍（主とし

て米軍）の攻撃は熾烈なものとなり、戦争が終ったときには、海運、水産界は文字通り壊滅状態となりました。

この戦争で6万余人の尊い船員の命が犠牲となり、破壊された船舶は、商船だけで2500隻、850万総トンにも達しました。機帆船、漁船等の被害状況の把握は、今日に至っても不詳の部分が多く、そのほとんどが壊滅するという悲惨なものとなりました。

戦後の失意の中にあつて、報われることなく海底に眠る船員の霊を慰め、本来は平和産業の士である船員が二度と戦火の海に航くことのないようにとの祈りをこめて、記念碑を建立する運動が有志の間で始められました。しかし、占領下の特殊事情もあつて、実現をみるに至らぬままに20年余が経過いたしました。

この間、目ざましい復興発展を続ける海運・水産界にあつて、この戦没船員の慰霊と永遠の平和を希求する人びとの願望は、次第に強い高まりをもつて広がっていきました。

このようなかで、昭和41年秋、財団法人日本海事広報協会が中心となつて記念碑建立の具体化を図ることになり、海事関係官庁や団体等によつて、戦没船員慰霊顕彰碑建立準備委員会が組織されました。この委員会は、観音崎を最適地として「戦没船員の碑」を建立するという基本計画をまとめ、さらにその実現に向け

て、昭和44年7月20日、財団法人戦没船員の碑建立会の設立へと発展、建立資金総額1億4千万円の募金を全国民に呼びかけました。この募金には、政府および財団法人日本船舶振興会の補助金をはじめ、海事関係の団体、船社、乗組員、役職員、さらには各地の小中学生等の多くの方々から募金が寄せられ、目標を達成することができました。

碑建立の工事は、昭和45年6月30日に起工式を行い、46年3月25日に完成いたしました。

私どもはここに、戦没船員の霊を慰め、永遠の平和を祈念する戦没船員の碑を建立することができました。

### 顕彰会の設立と殉職船員

先の大戦で生き残った船員たちは、戦後休む間もなく600万人を超える各戦域に散在する兵員と外地邦人の引き揚げ輸送（アメリカ側から貸与されたリバティ型貨物船等200余隻）に従事し、昭和21年末までにはほとんど事故もなく船員の手によつて帰還輸送が完了いたしました。

その後わが国は、廃墟の中から復興へと向かっていきましたが、それを支えて大きな原動力となつたのは海運・水産業でありました。

しかし、使用された船舶は戦時標準船に代表される劣悪な船舶が多く、厳しい気象、海象の中で多くの船員が殉職いたしました。

昭和46年5月6日に第1回追悼式を行つて以来、毎年5月に追悼式を挙行して戦没船員の霊を慰めてまいりましたが、この間、海事関係者の中から、戦後の海難や労働災害で殉職された船員の慰霊に対する要望が高まつてまいりました。

昭和56年4月、戦没船員とともに殉職された船員の慰霊顕彰と遺族の援護を目的として、財団法人日本殉職船員顕彰会が設立されました。戦没船員の碑には殉職船員も併せて奉安され、現在は不幸にして職に殉じられた船員の慰霊碑にもなつています。以来、毎年戦没・殉職船員の追悼式が継承実施されています。

なお、水産分野の殉職船員については、一部を除き奉安されずにまいりましたが、平成13年度より水産業界のご協力を得て奉安されることになりました。このことにより、平成30年5月現在奉安されている戦没船員は6万643人、殉職船員2971人、総計6万3614人の御霊が奉安されています。

また、天皇皇后両陛下はじめ皇室の方々におかれましては、節目の追悼式や折りにふれて慰霊碑におはこびいただきました。

さらに「終戦60周年記念戦没・殉職船員遺族の集い」に天皇皇后両陛下のご臨席を賜り、最近では終戦70年にあたる第45回追悼式に行幸啓を仰ぎ、ご供花を賜りました。